

一般国道431号川津バイパス 川津工区完成！ ～4車線化により道路ネットワーク機能が強化されました～

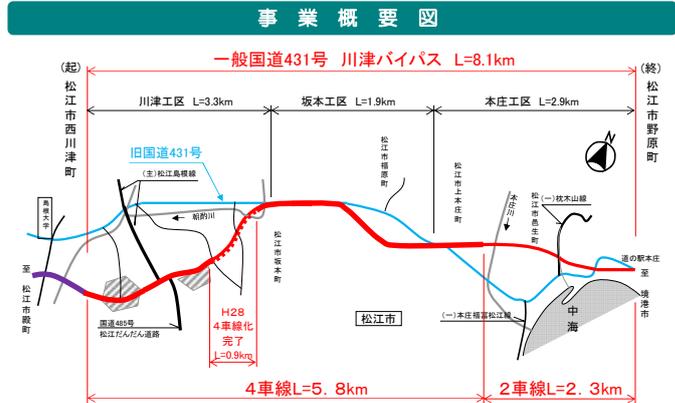
国道431号は、出雲市大島町の国道9号交差点を起点とし、松江市、鳥取県境港市を經由して米子市内の米子自動車道を結ぶ延長96.8kmの幹線道路です。本路線は、宍道湖、中海の北側を縦走する唯一の道路であり、出雲・松江地方の大動脈として重要な役割を担っています。

このため、広域的な道路ネットワーク機能の強化を目的に、松江市西川津町から野原町までの8.1km区間について昭和48年度から4車線を基本とするバイパス整備を3工区に分け順次進めてまいりましたが、平成28年12月27日、川津工区の0.9km区間の4車線化工事が完成し、松江市中心部から5.8kmが4車線につながりました。



【事業概要】

事業年度：昭和48年度～平成28年度
 事業費：約161億円
 事業箇所：松江市西川津町～松江市野原町
 延長：8.1km（うち今回供用区間0.9km）
 道路規格：3種2級、設計速度60km/h
 車線数：4車線（一部2車線）両側歩道



★川津バイパスの主な整備効果

昭和48年度の事業着手から約43年を経て完成した、川津バイパスの整備効果をご紹介します。

●交通混雑の解消

平成5年に川津工区(3.3km)を2車線供用しました。その結果、島根大学付近の旧国道431号の交通混雑が解消されました。



国道431号(松江市西川津町地内)混雑状況

●宍道湖・中海圏域の活性化

川津バイパス沿線では「あじさい団地」などの宅地開発等が進んでいます。

また、山陰道と川津バイパスを直結する「松江だんだん道路」の開通により道路ネットワークを形成し、宍道湖・中海圏域のさらなる活性化に貢献するものと期待されます。

●通学路の安全確保

国道431号周辺には学校が多いため、両側歩道のバイパス整備により通学児童・生徒の安全性が高まりました。